



R.I. District2610. ROTARY CLUB OF UOZU  
**魚津ロータリークラブ 会報誌**  
2007-2008 年度 RI 会長 ウィルフッドJ. ウィルキンソン  
魚津R.C会長 谷川 文紹

2007 年10月26日

## 第2605回 例会報告

### ゲスト並びにビジター紹介

ビジター 大城 宗文 君 (魚津西 R・C)

### 誕生祝



**武隈 博信 君 夫人 郁子 様 10月27日** 家内のお祝いありがとうございました。年齢は 72 歳になります。40 数年前に結婚した時は魚津に馴染みませんでした。今ではすっかり魚津人になりきり週に一度ハワイアンを楽しんでおります。妻が寝る前に“肩こり”用マッサージなどを施してあげて夫婦喧嘩もなく仲良く過ごしております。



**中島 久義 君 10月30日** 満 63 歳の誕生日を祝っていただき感謝します。仕事柄で今の時期は秋刀魚漁を行っています。資源保護の関係上で本年は豊漁で週 2 回のみのお出船で、一日出船すると三日間位休まなければいけなく“ヤキモキ”しています。最近孫を連れてよく金太郎温泉に行きますが、その際に会員とお会いし楽しく会話を楽しんでいる今日この頃です。これからもよろしく申し上げます。

\*紙面の関係上で、**生駒 晴俊 君 夫人 三代 様 11月1日**

**春田 清 君 11月8日** のコメント及び写真は第 2606 回の会報誌に繰り越させていただきます。

### 会長挨拶

今回の例会は芸術の秋ですので、新川文化ホールで「魚津市美術展」を鑑賞する例会とします。前回の桃山運動公園で野外例会では雨で環境整備が出来ませんでしたので、11 月中に再度企画いたします。本年度の最大のイベントである地区大会が 10 月 20・21 日に羽咋市で開催され、20 日の基調講演は N J O (非政府組織) で活躍されている「サオトメ ユキヒロ」氏の“ロータリーの奉仕活動”に関連した内容でした。国際的にも歴史感においても開発途上国に対し広く援助を行う奉仕活動を行うこと人道的にも重要なことでそれによって、自国や小事であるが自分達の仲間や個人を守ってくれ、いずれは私達の事業への有益性に有利に繋がってくることであり、また奉仕活動は社会構造の中でいかに重要なことであるかを問いかけ非常に感銘を受けました。

又 その他に 我々の活動によって米山奨学生・国際親善奨学生・交換学生・J S C 学生達から大変に恩恵を受けていることに感謝しているとの良い話がありました。

12 月 2 日に黒部中央 R C スポンサーによる富山第一分区の I M が開催されますが出席義務者以外にも多数の会員参加を願います。

次年度は魚津 R C よりガバナー補佐に根岸君を推薦していますのでよろしく申し上げます。本日の健康講座は休会します。

## 幹事報告

- ★ 米山記念奨学会 「米山学友の消息を訪ねる運動」協力依頼
- ★ 羽咋 R・C 地区大会の礼状
- ★ 青少年育成魚津市民会議 強調月間講演会開催案内状
- ★ 11月4日に会長が「魚津市美術展」の表彰式に出席します。
- ★ 11月度例会案内

**出席報告** 出席者 31名 出席率 96.87% 2603回 出席率 変わらず

## ニコニコボックス

野澤 良成 君 インターアクト生の海外研修に魚津工業高校の浦さんから申込がありました。

## 委員会報告

クラブの活動ではありませんが、本日北陸銀行の“経営講演会”があり、希望者は出席下さい。

## 卓話

### 「デジタルの世界と写真館の行方」 根岸 朗 君



我が国へ写真技術が渡来したのは今から 160～70 年前の 1850 年前後です。幕末の志士“坂本竜馬”や侍姿で日本刀を持ち頭はチョンマゲを結び編み上げ靴を履いて腰掛猫足のテーブルに肩肘を付いての写真を見かけた方も多いと思います。一方 写真館は 1862 年に”長崎で上野彦馬 “” 横浜で下岡連杖 “と何れも当時の海外文化の玄関口の地域で開設され、現代日本の映像文化の原点を築きました。それ以来 写真技術は驚異的な発展を遂げました。草創期にはシャッター速度が 3 分間も掛かったものが 1/1000～1/2000 になり、白黒写真からカラー写真の時代を経て現在はデジタルの世界に変貌してきました。この時代の変遷に”勉強を怠ったために取り残された写真館 “はどしどし廃業に追い込まれました。県内においても近々 10 年間でカメラ屋は 1/3 に、写真館は 1/2 の店舗数になりました。何千万円もするアナログのプリント機器が減価償却も出来ないうちにデジタル化に移行し企業の存亡に晒されているのが現状である。私がこの業界に入ったのは、徒弟制度時代で 1936 年 4 月 16 日です。この頃は不景気な時代で 2・26 事件や東北地方では農作物の不作による恐慌時代で、16～7 歳の娘を色町に出稼ぎに出ざるを得ないといった事が連日の新聞報道されていました。



私が修行を始めた 1936 年に富山日満博覧会が開催され先輩の鞆持ちとして頑張りました。その後 16 年間の修行時代は朝 5 時には起きて先輩達の洗濯・スタジオや店舗の掃除・お勝手で女中さんのお手伝いといったことをやってきました。

徒弟制度として“生業の名工の称号”として、ドイツにマイスター制度がありますが、業界内には大正初期に留学し、ポートレート界に新風を吹き込んだ方もおいでになり、15 年ほど前に亡くなり残念です。写真館のスタジオや画家のアトリエは、北向きで一年中直射日光が入らないようになっており、採光方法はレンブラントライティング法が用いられます。これは 1600 年代に活躍したオランダの画家“レンブラント”の自画像の技法です。この技法を使って明治天皇の御真影を撮影するのに時の元勳黒田清隆の実弟黒田清輝が設計し皇居内に設けられ、その立体的に描写され画面から抜け出すような肖像写真は特に有名な話です。いかにアナログからデジタルの時代になったとはいえ撮影技術・技法では、種々テクニックがありプロフェッショナルな商業写真家として時代の過渡期に対応すべきであると考えており、そのことから徒弟制度の重要性を感じています。